

## 桐生高校理数科2年生のSHHで被災地調査を実施

平成19年台風9号によって被災した南牧村を訪問

群馬県立桐生高校理数科2年生の4名が、SSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）の授業として本学科の研究室で学んでいます。テーマは「災害情報の有効性とその効果的な提供方法」について研究しており、災害に関する情報を有していることで、どれだけ被害を軽減することができるのかなどを調べています。

この調査研究の一環として、平成19年台風9号によって被災した群馬県南牧村に調査に行ってきました。この調査の目的は、被災後の復旧・復興状況を把握するだけでなく、被災当時の様子を現地の状況を確認しながら学び、この地域の住民が災害に関する様々な知識を有していたことが、結果として犠牲者をださずにすんだことにつながったことを調査してきました。



被災直後はひどい状況でした



被害の大きかった地域で、被災当時の住民の状況を考察

また、被災地を支援する意味も込めて、調査当日は南牧村の名物『炭ラーメン&炭ギョーザ』を食べてきました。被災地支援はボランティアや募金だけでなく、被災地に観光に行って、そこでお金を使ってくることも立派な被災地支援になるんだということを理解してくれたようです。

